

令和5年4月4日

令和5年度 板橋区立加賀中学校 学校経営方針

板橋区立加賀中学校

校長 松本 彰弘

1 学校の教育目標

人権尊重の精神を基調とし、平和的な国家及び社会の形成者として国際的視野をもって行動できる人間の育成をめざす、健康で豊かな人間性と社会性を育み、新しい時代を切り開く心豊かでたくましい人間を育てるため、次の目標を掲げる。

- 自ら学び、創造する生徒
- 豊かな心で、思いやりのある生徒
- ねばり強く、健康な生徒

【校訓】

白梅の におい豊かに 明るく強く 毎日必ず 一歩前進

2 白梅学びのエリアのめざす子ども像

より良い未来、主役は子ども

～「自立・貢献・共生・創造」し、より良い未来を切り拓く人をめざして～

- 自ら学び、考え、表現し、責任をもって行動する子
- 自他を大切に、思いやりをもって協働する子
- 心身ともにたくましく、ねばり強く努力する子

3 めざす学校像

- ① 生徒、教職員、保護者、地域がそれぞれの立場で結びつきを強め「ONE TEAM」となる学校
- ② 生徒も教職員も常に生き生きとしている、活力と笑顔があふれる学校
- ③ 生徒も教職員もチャレンジ精神を持ち続け、前に進み続ける学校
- ④ 生徒の個性に応じて輝ける場所があり、夢や希望を抱くことができる学校
- ⑤ 生徒も教職員も互いを認め合い、豊かな心を育む学校

4 めざす教師像

- ① 教育に情熱と使命をもち、生徒の可能性を引き出すことに努める教師
- ② 生徒の学習意欲を高める授業をし、基礎学力を定着させる指導に努める教師
- ③ 生徒のことを盛んに話し合い、生徒への思いやりをもって行動する教師
- ④ 生徒や保護者の思いを受け止めながらも、生徒を正しく導く力量をもつ教師
- ⑤ それぞれの立場で積極的に学校経営に参画し、前向きに自己研鑽に励む教師

5 めざす生徒像

- ① 学習習慣を身に付け、自らを高めるために進んで学ぶ生徒
- ② 互いのよさを認め合い、集団生活を通して、自立する力を身に付ける生徒
- ③ 思いやりの心をもち、自他のために積極的に行動できる生徒
- ④ 何事にもねばり強く取り組むことで自らを鍛え、成長する生徒
- ⑤ 将来に希望をもち、自らの進路を切り拓くために努力を惜しまない生徒

6 指導の重点

【令和5年度重点教育活動】

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業革新を全教員が行うことで生徒の学力向上を図る。
- (2) 「読み解く力」の育成と総合的な学習の時間を中心に探究学習に力を入れ、自ら進んで学びを深めることができる生徒を育成する。
- (3) 生徒一人一人の個に応じた学習指導及び教育活動を推進するとともに、個性を認め合い、互いに学び合うことを通して、自らを高めようとする生徒を育成する。

(1) 教科指導

- ① 「読み解く力」の育成 ⇒ 教科書の活用による基礎的読解力の向上、学んだことを OUTPUT できる表現力の向上

「読み解く力」とは、教科書等の文章や図表等から読み取ったこと (INPUT) を基にして、分かったこと、考えたこと (THINK) を相手に伝える (OUTPUT) 力をさす

【学びのエリア3校共通の取組】

- ◇ 週案には、授業のめあてをしっかりと書く。
(めあては、生徒主体の表現で、生徒の OUTPUT を意識した内容とする)
 - ◇ 教科書を中心にして授業を進めるものには、単元名（もしくは教材名）に色を付ける
 - ◇ 白梅学びのエリアの3校は、板橋区研究奨励校（読み解く力）及び「板橋のiカリキュラム（読み解く力）」活用実践校となっている。
- ② 「板橋区授業スタンダードの徹底」⇒ 「ふりかえり」の時間の確保と学びに向かう意欲の適正な評価の工夫
 - ③ ICT 機器を有効活用した主体的・対話的で深い学びの実践 ⇒ 教師が教えすぎない、教師が話しすぎない授業づくり
 - ④ 「自立・貢献・共生・創造」をキーワードにした探究学習 ⇒ 総合的な学習の時間を軸に自らの考えを深く掘り下げる学習の実践
 - ◇ 与えられたテーマについて、調べて、紙面やスライドにまとめて、発表もしくは掲示して終わりではなく、SDGs や社会の諸問題と結びつけて深く考えさせるところまで学習させる。
 - ◇ 評価については、その生徒が何について探究したのかを明記し、学習の到達状況に応じた評価を記す。

- ⑤ 「考え・議論する」道徳授業の推進 ⇒ ワークシートに頼りすぎない授業、全教員によるローテーション授業の実施

◇道徳の評価の記入については、何について学び、どのように考えたのかを、生徒の言葉を取り入れて、表すものとする。

(2) 生活指導

- ① 基本的生活習慣「あじみこしも」(あいさつ・返事、時間を守る、身だしなみを整える、丁寧な言葉遣い、姿勢を正す、物の管理)の全教職員での指導 ⇒ 学びのエリアでの共通の取組
- ② 全教職員での共通理解に基づく生活指導 ⇒ 「報告・連絡・相談」の徹底
- ③ 生徒の生命・安全を守る ⇒ 生命の安全教育、子ども家庭総合支援センターとの連携、避難訓練・安全指導の充実、熱中症対策、コロナ対策

生命の安全教育(中学校)のねらい

性暴力に関する正しい知識をもち、性暴力が起きないようにするための考え方・態度を身に付けることができるようにする。また、性暴力が起きたとき等に適切に対応する力を身に付けることができるようにする。

- ④ いじめの未然防止と早期発見、早期解決 ⇒ ふれあい月間アンケートに基づく相談機会の活用、かがもん相談カードの活用、保護者との連携、SC・SSWや外部機関の活用
- ⑤ 個に対する理解と受容 ⇒ 不登校生徒対応、LGBT 生徒対応、hyper-QU の結果分析、特別支援教育の充実、図書室の効果的な活用の検討
- ◇不登校生徒や教室に居づらい生徒の居場所作りを推進する。図書室や加賀ルームをよりオープンなものとする。
- ⑥ 校則の見直し ⇒ 「ルールメイキングプロジェクト」の継続、生徒や地域の声を取り入れた見直しの実施

(3) 特別活動・他

- ① 運動会・白梅祭等の学校行事の充実 ⇒ 互いの頑張りを認め合い・高め合う集団、個々の生徒が輝く場の提供、達成感・自己肯定感の醸成
- ② 生徒会活動、学級活動、学校行事の活性化 ⇒ 「学級活動の日」の充実
- ③ 部活動の適正な運営 ⇒ 生徒の資質・能力の向上、板橋区のガイドラインに則った活動、教職員の負担の軽減、地域人材・外部人材の登用(すべての部活動に部活指導補助員の配置をめざす)
- ④ 外部人材の活用 ⇒ ゲストティーチャーによる授業、茶の湯体験、留学生交流、等
- ⑤ 3年間を見通したキャリア教育 ⇒ 地域と連携した職場体験学習・地域面接練習の実施、将来の人生に希望を持たせる指導

(4) 小中連携

- ① 年3回の合同研修以外にも、教科ごとに、率先して授業参観や授業で作った作品を展示し合うなどを行い、9年間で身に付けたい力を育成する。

- ② 生徒会・児童会活動の連携 ⇒ あいさつ運動を同一期間に実施し、学びのエリア統一あいさつ運動にスケールアップ。(6月、11月、2月のふれあい月間に合わせて実施。保護者や地域とも連携して実施できればなおよい。)
- ③ 生徒・児童の交流 ⇒ 小学校の運動会の手伝い、ビブリオバトルの実演、夏季補習でのリトルティーチャー、部活動の体験入部、などの実施

(5) 開かれた学校

- ① コミュニティ・スクール委員会の活用 ⇒ 管理職だけでなく、教職員や生徒会役員も参加した委員会の開催
- ② 地域行事との連携 ⇒ 生徒の地域活動への積極的な参加、災害発生時の拠点施設となる「町の学校」としての役割
- ③ 花壇や落ち葉清掃などの環境整備 ⇒ CS 委員会や地域町会への支援要請
- ④ 学校ホームページや各種たよりの充実 ⇒ 加賀中の教育活動を正しく、頻繁に発信する。学年だよりの内容の充実(生徒の考えや学校の考えを保護者に届ける)
- ⑤ 学校公開、保護者会の工夫 ⇒ 「また来たい」と思わせるような内容の工夫

6 教職員に望むこと

- (1) 個人の資質・能力の向上 ⇒ 「個」が強くならなければ、強い「組織」など作れるはずがない
 - ・授業力、指導力を常に磨き続ける(前回と同じことをすればいいからの脱却)
 - ・「自分は加賀中の生徒のために何をなすべきか」を常に意識し続ける
- (2) 働き方改革

職務の見直しや軽減、学校行事の精選、会議のペーパーレス化、classroomでの情報共有、定時退勤日の設置等の取組 ⇒ 月残業時間45時間以内を目標にした働き方改革、毎日の退勤時間目標の設定
- (3) 人権意識の向上

男女混合名簿の作成、生徒の相互理解が深まる学級経営、ハラスメント防止
- (4) 来校者や電話への対応 ⇒ 学校の品位を保つ接遇をする。電話には「加賀中学校(役職)〇〇でございます」と最初に告げるのが望ましい。来校者にはあいさつをする(不審者対応も兼ねる)
- (5) 服務事故の防止 ⇒ 教師を見る世間の目は厳しい
 - ・管理職への「報告・連絡・相談」の徹底
 - ・体罰や不適切な指導は絶対に許されない 指導は複数対応で
 - ・個人情報の紛失、わいせつ行為、通勤手当の不正受給、会計事故、交通事故、等について毎月の服務事故防止研修で自らをチェック
- (6) 言語環境を整える ⇒ 生徒への言葉遣い、教職員同士の言葉遣いの乱れの抑制
- (7) 机上整理、準備室等の整理 ⇒ 服務事故防止にもつながる、誰もが気持ちよく働ける職場環境整備を
- (8) 困ったときには抱え込まず相談を ⇒ 学校はチームで動く、自分一人で何とかしようと頑張りすぎない
- (9) コロナ対策 ⇒ ガイドラインの遵守、校外生活にも留意を